



福島県への 復興支援提案について

相澤 隆郎 (あいざわ たかお)

カメイ商事株式会社 代表取締役社長
仙台市



農林水産物・食品の輸出促進について

平成25年6月に閣議決定された「日本再興戦略」において、安倍内閣は、農業・農村所得倍増のため、2020年に農林水産物・食品の輸出を1兆円とする戦略を策定しました。すなわち、2012年の約4,500億円から中間目標7,000億円（2016年）、2020年1兆円とすることを日本再興戦略（2013年6月）において目標を設定しました。2020年の輸出額を水産物3,500億円、加工食品5,000億円、コメ・コメ加工品600億円、その他1,050億円とする計画です。2015年の輸出実績は7,452億円となり2016年の中間目標を達成する見込みで、これを踏まえて、「未来への投資を実現する経済対策」（2016年8月閣議決定）において、輸出額1兆円の目標を2019年に前倒し達成することが図られました。

東北地方の地方創生において、第一次産業の6次化や農商工連携を推進して行くことが課題となっています。その中で、コメ・コメ加工品に関して注目をしてみたいと思います。

コメ・コメ加工品の2015年輸出額について、201億円の内訳は日本酒140億円、米菓39億円、米22億円となっております。これを2019年に目標600億円達成のため、日本酒420億円、米菓115億円、コメ65億円とし、日本酒及び米菓、コメの新規需要米数量を推計しました。

下記2019年輸出額に関する新規需要米想定（コメ・コメ加工品）表より、2019年には、2015年比で日本酒及び米菓、コメ輸出により約43,000tの新規需要米増が想定されます。

日本酒の普及について

酒類消費数量は、1996年の9,656千KLをピークに減少に転じ、2014年には8,331千KLと18年間で14%も減少しました（国税庁統計年報書より）。日本酒は、1975年の1,697千KLをピークに2014年には591千KLと約65%も減少しています。一方焼酎は、日本酒減をカバーするように推移して来ていますが、近年「焼酎＋日本酒」数量も減少に転じ全消費

2019年輸出額に関する新規需要米想定（コメ・コメ加工品）

	2016.1～7月 輸出額(千円)	2016.1～7月 輸出数量(KL・t)	2016.1～7月 平均円/(kg・L)	2015年輸出数量 実績(KL・t)	2019年輸出額 (千円)	2019年輸出 数量(KL・t)	(2019年-2015 年)数量(KL・t)	米換算(t)
日本酒	8,724,570	11,436KL	763円/L	18,180KL	42,000,000	55,053KL	37,000KL	19,000 t
米菓	2,169,973	2,069 t	1,049円/kg	3,679 t	11,500,000	10,965 t	7,000 t	7,000 t
※コメ	1,377,075	5,183 t	266円/kg	7,760 t	6,500,000	24,465 t	17,000 t	17,000 t
輸出合計	12,271,618				60,000,000			43,000 t

※コメ：援助米を含まず

出所：財務省貿易統計（国別品別表）

量の17.4%（2014年）に過ぎません。その一方で、リキュール・果実酒類（ワイン等）は28.1%と、「焼酎+日本酒」を圧倒しています。

これは、食文化の欧米化と共に飲酒スタイルも大きく変化し、また、人口減少も拍車をかけています。さらに東北地方は東日本大震災以降風評被害が、未だに払拭できていない状況です。

しかし、この状況を自ら解決する糸口を見出さなければなりません。震災後5年を経過し覚悟を決めて対応することが肝要です。そこで、日本酒の普及を足がかりにはどうでしょうか!? 次に、日本酒の海外輸出や東北から関東・関西圏への販売、地域内の販売の一助として、IWC「チャンピオン・サケ」の活用を提案したいと思います。

IWC「SAKE部門」「チャンピオン・サケ」

IWC（インターナショナル・ワイン・チャレンジ）は、世界のワイン・ジャーナリズムをリードするロンドンで開催され、世界最大規模・最高権威に評価されるワイン・コンペティションであり、世界中のワイン業者から注目されています。

1984年、ロバート・ジョセフ、チャールズ・メトカーフの2人によってロンドンで開催されたのが始まりです。2週間にわたって500人を超える審査員がテイスティングを行い、その年の最優秀賞を決めます。

IWCの審査はブラインド・テイスティングとって一切の先入観をなくすため名称・産地と

いった個別情報は伏せられた上で審査を受けることになります。一度、賞をとったとしても翌年同じような結果を得ることができるとは限らず、毎年受賞酒が変わるため世界的にも公平性があるとされているのです。

ワインのコンペティションとして始まったIWCですが、2007年よりSAKE部門が設立されました。毎年数多くの蔵元が選りすぐりの酒を出品し競い合います。下記の9つのカテゴリーごとで審査員によるブラインド・テイスティングを行い、優秀賞を得た日本酒にはそれぞれ、金メダル・銀メダル・銅メダル・大会推奨酒の称号が与えられます。

さらに、各カテゴリーの金メダル受賞酒の中からもっとも優れた銘柄に対しトロフィー受賞酒が選ばれ、さらに各トロフィー受賞酒の中から日本酒部門最高の栄誉である『チャンピオン・サケ』が選ばれるのです。2015年度に、福島県のほまれ酒造「会津ほまれ播州産山田錦仕込 純米大吟醸酒」がチャンピオン・サケに選ばれたのは、記憶に新しいところですが、年々参加蔵元も増えており、2016年度には全346蔵1,282銘柄の日本酒が出品されました。

2016年、IWC「SAKE部門」設立10周年を記念し、兵庫県で審査会等が5月16～22日に開催されました。審査会には、審査員として英国及び欧州各地より日本酒のサービス、販売等の経験が豊富な関係者が集まりました。審査会をへて生田神社会館にてメダル受賞酒発表・祝賀パーティーが5

9つのカテゴリー（2016年度トロフィー受賞酒）

カテゴリー	県名	蔵元名	酒名
1. 普通酒の部	岐阜県	(有)渡辺酒造店	蓬萊 天才杜氏の入魂酒
2. 本醸造酒の部	岩手県	(株)南部美人	本醸造 南部美人
3. 純米酒の部	山形県	出羽桜酒造(株)	出羽桜 出羽の里
4. 純米吟醸酒の部	茨城県	青木酒造(株)	御慶事 純米吟醸
5. 純米大吟醸酒の部	山形県	浅舞酒造(株)	天の戸 純米大吟醸 35
6. 吟醸酒の部	山形県	出羽桜酒造(株)	出羽桜 桜花吟醸酒
7. 大吟醸酒の部	青森県	八戸酒造(株)	陸奥八仙 大吟醸
8. 古酒の部	岡山県	宮下酒造(株)	古酒 永久の輝き
9. スパークリング酒の部	高知県	土佐酒造(株)	スパークリング酒 “john”

出所：酒サムライ公式ウェブサイト

過去のIWC「チャンピオン・サケ」

年度	県名	蔵元名	カテゴリー	酒名
2007	石川県	菊姫(資)	純米酒	鶴乃里
2008	山形県	出羽桜酒造(株)	純米吟醸酒	出羽桜一路
2009	秋田県	金紋秋田酒造(株)	古酒	山吹1955 (古酒)
2010	福井県	(資)加藤吉平商店	純米酒	梵・吟撰
2010	新潟県	(名)渡辺酒造店	純米／純米大吟醸酒	nechi 2008
2010	広島県	(名)梅田酒造場	本醸造酒	本州一無濾過本醸造
2010	栃木県	(株)井上清吉商店	吟醸／大吟醸酒	澤姫大吟醸真・地酒宣言
2010	広島県	榎酒造(株)	古酒	華鳩貴醸8年貯蔵
2011	佐賀県	富久千代酒造(有)	大吟醸酒	鍋島 大吟醸
2012	秋田県	ナショナル物産(株)木村酒造事業部	大吟醸酒	大吟醸 福小町
2013	福岡県	(株)喜多屋	大吟醸酒	大吟醸 極醸喜多屋
2014	岐阜県	(株)平田酒造場	古酒	熟成古酒飛騨の華酔翁
2015	福島県	ほまれ酒造(株)	純米大吟醸酒	会津ほまれ播州産山田錦仕込 純米大吟醸酒
2016	山形県	出羽桜酒造(株)	純米酒	出羽桜 出羽の里 純米

出所：酒サムライ公式ウェブサイト

月20日に開催され下記トロフィー受賞酒が選ばれ、その中から7月7日にロンドンにて『2016チャンピオン・サケ：出羽桜 出羽の里』が選出され、2年連続で東北地方の酒蔵が栄冠に輝きました。

私は、2016年5月20日に開催されたメダル受賞発表・祝賀パーティーへの招待を受け、多くの方々との意見交換することが叶いました。東北の地方創生に関して私見を述べさせて頂きたいと思います。

IWC「SAKE 部門」創設時には、121蔵228銘柄の参加でしたが、今回2016年には346蔵1,282銘柄と最多の出品数となりました。従来は日本酒部門の最高賞として「チャンピオン・サケ」が1銘柄選出されましたが、2010年度より5つのカテゴリーそれぞれにおいてもっとも優れていると評価された出品酒に「チャンピオン・サケ」が与えられることとなりました。そして2011年度より各カテゴリーにおいてゴールドメダルを獲得した出品酒のうち、さらにそれ以上のレベルに達していると認められたものに、その製造者が属している地域の名を冠した「トロフィー」が与えられ、さらに「トロフィー」受賞出品酒の中から、各カテゴリーの最高賞として「チャンピオン・サケ」が与えられることとなり現在に至っております。

上記の過去のIWC「チャンピオン・サケ」の受賞カテゴリーを見ると、大吟醸／純米大吟醸酒／古酒といった芳香臭の強い酒質が選択傾向にあります。これは、審査委員の半数の方がワインの専門家であるため香りに敏感なところがあるようです。

また、2016年トロフィー受賞酒を見ると9つのカテゴリー中、6つのカテゴリーが東日本エリアであり、5つが東北地方となっています。

さらに、少なくとも6つのカテゴリーの原料米は従来の山田錦ではなく地産地消の原料米を使用していることも特徴です。

福島県への復興支援提案について

日本酒の普及を前提に2016年IWC「SAKE 部門」審査会が兵庫県にて開催されましたが、「東北地域一体」となったプロモーションを福島県発信の上、開催を実現してはいかがでしょうか!? 「東北ツーリズム」発信力強化を進めるために、日本酒普及活動（日本酒の歴史、観光連携等）を官民連携で実現し、また、原料米の地産地消を図るとともに、強力にコストダウンを推進し、競争力強化を図ることで雇用創出を実現することを提案いたします。